

古文ドリル：副助詞「だに・すら・さへ」識別 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「だに・すら・さへ」の違い

副助詞「だに・すら・さへ」は、**3つの違い**が混同されやすい入試頻出語。

副助詞	意味	訳
だに	最小限の限定／類推	せめて～だけでも／～さえ
すら	類推（軽い→重い）	～できえ
さへ	添加	～までも

使い分けの鉄則

「だに」

- 軽いものを挙げて、重いものを推測 → 類推
- 「せめて～だけでも」と願望

例：

光だに見えず。「光さえ見えない」（暗闇の表現）

「すら」

- 「だに」と類推の意味で重なる
- ただし「すら」のほうが古い言い方

例：

神すらかしこむ。「神できえ恐れ敬う」

「さへ」

- すでにあるものに **加えて** 別のものも
- 「～までも」

例：

雨降り、風さへ吹く。「雨が降って、風までも吹く」

識別の鉄則

1. 「だに」「すら」 → 類推（～でさえ）
2. 「さへ」 → 添加（～までも）
3. 「だに」は 願望表現 と結びつく（せめて～だけでも）
4. 下に願望（ばや・なむ・もがな）があれば「だに」の「最小限の限定」用法

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは 試験本番で3秒で答えを出す ための実戦テクニックです。

コツ① 「さへ」を見たら即「までも」（添加）で確定

3つのうち「さへ」だけは別物（添加）。文中に「さへ」を発見したら、他を考えず「～までも」と訳す。例：「風さへ吹く」→「風までも吹く」

コツ② 「だに」は下に願望があるか即チェック

「だに」の後ろを見て： - 下に 願望（ばや・なむ・もがな・てしがな）／命令／意志 → 「せめて～だけでも」 - それ以外 → 「～でさえ」（類推）

例：「一目だに見せばや」→ 願望あり → 「せめて一目だけでも」

コツ③ 「すら」は古い言い方の「さえ」で固定

「すら」は迷ったら 必ず「～でさえ」で訳す。用法分岐はほぼなし。例：「神すらかしこむ」→「神でさえ恐れ敬う」

コツ④ 「さへ」と「だに」を入れ替えて意味が通るか試す

- 「だに／すら」 = 「さえ」と入れ替えてOK（類推）
- 「さへ」 = 「までも」で入れ替えてOK（添加） 判別に迷ったら 訳語を当ててみる のが最速。

試験本番でのチェック順序

1. 「だに／すら／さへ」のどれかを特定
2. 「さへ」ならその場で「までも」確定

3. 「**だに**」なら下に願望があるかチェック → あれば「せめて～だけでも」、なければ「～でさえ」
 4. 「**すら**」なら「～でさえ」で固定
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「さへ」を「～でさえ」と訳してしまう → 古文では添加「までも」
- 「だに」を全部「～でさえ」と訳す → 願望が下にあれば「せめて～だけでも」
- 「すら」と「さへ」を同じだと思って混同 → 「すら」=類推、「さへ」=添加

採点表

- 基礎 (Q1～Q20) : /20
- 標準 (Q21～Q50) : /30
- 応用 (Q51～Q80) : /30
- 入試レベル (Q81～Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

Q1. 副助詞を識別せよ。

光**だに**見えず。

Q2. 識別せよ。

神**すら**かしこむ。

Q3. 識別せよ。

雨降り、風**さへ**吹く。

Q4. 識別せよ。

命だに惜しからず。

Q5. 識別せよ。

心ある人すら知らず。

Q6. 識別せよ。

月明け、星さへ出づ。

Q7. 識別せよ。

一夜だに眠られず。

Q8. 識別せよ。

親すら子を捨つ。

Q9. 識別せよ。

花散り、葉さへ落つ。

Q10. 識別せよ。

一言だに告げず。

Q11. 識別せよ。

仏すら迷ふ。

Q12. 識別せよ。

寒く、雪さへ降る。

Q13. 識別せよ。

せめて一度だに会はなまし。

Q14. 識別せよ。

鳥すら鳴かず。

Q15. 識別せよ。

嵐の音、地さへ揺るがす。

Q16. 識別せよ。

我だに知らねば、誰かは知らむ。

Q17. 識別せよ。

君すら心通はず。

Q18. 識別せよ。

病、心さへ痛む。

Q19. 識別せよ。

ひと滴だに雨降らず。

Q20. 識別せよ。

風吹き、霜さへ置く。

基礎編 / 20

【第2部】標準編 (Q21~Q50)

Q21. 識別せよ。

せめて夢にだに見えなむ。

Q22. 識別せよ。

賢人すら過つ。

Q23. 識別せよ。

雨降り、雷さへ鳴る。

Q24. 識別せよ。

子だに親を顧みず。

Q25. 識別せよ。

一度だに御目にかからばや。

Q26. 識別せよ。

神すら助けず。

Q27. 識別せよ。

草木さへ枯れぬ。

Q28. 識別せよ。

文字だに読まれず。

Q29. 識別せよ。

風の音すら聞こえず。

Q30. 識別せよ。

雨に風さへ加はりて。

Q31. 識別せよ。

我が身だにもて余す。

Q32. 識別せよ。

ありがたき友すら離れぬ。

Q33. 識別せよ。

心さへ乱れぬ。

Q34. 識別せよ。

しばしだに心安からず。

Q35. 識別せよ。

鬼すら恐る。

Q36. 識別せよ。

春の風、香りさへ運ぶ。

Q37. 識別せよ。

一筆だに書かず。

Q38. 識別せよ。

帝すら心動かす。

Q39. 識別せよ。

暮らし果てて、命さへ惜しからず。

Q40. 識別せよ。

影だに残らず。

Q41. 識別せよ。

仏すら助けず。

Q42. 識別せよ。

雪降り、霰さへ散る。

Q43. 識別せよ。

三日だに待たず。

Q44. 識別せよ。

古き友すら忘れにけり。

Q45. 識別せよ。

心、目さへくらむ。

Q46. 識別せよ。

庵の戸だに閉ぢず。

Q47. 識別せよ。

帝の御心すら動く。

Q48. 識別せよ。

旅の労、心さへ疲る。

Q49. 識別せよ。

せめて言葉だに残さばや。

Q50. 識別せよ。

涙、声さへかれぬ。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

文脈把握・係り結び・複合表現を伴う。

Q51. 識別せよ。

我だにかく思ふ、まして人は。

Q52. 識別せよ。

鬼神すら心ありや。

Q53. 識別せよ。

花散り、葉さへ色変はる。

Q54. 識別せよ。

雀の子だに羽ばたく。

Q55. 識別せよ。

賢き帝すら惑ふ。

Q56. 識別せよ。

月隠れ、星さへ見えず。

Q57. 識別せよ。

一夜だに会はばや。

Q58. 識別せよ。

神仏すらかなはず。

Q59. 識別せよ。

涙、袖さへ朽ちぬ。

Q60. 識別せよ。

名だに告げず去りぬ。

Q61. 識別せよ。

都人すら驚く。

Q62. 識別せよ。

御方様、御目さへ腫れたまふ。

Q63. 識別せよ。

せめて夢にだに見え給へ。

Q64. 識別せよ。

仏すらぞ知らぬ。

Q65. 識別せよ。

風吹き、波さへ荒し。

Q66. 識別せよ。

言の葉だに通はず。

Q67. 識別せよ。

我が君すら疑ふ。

Q68. 識別せよ。

古き道、跡さへ消えぬ。

Q69. 識別せよ。

せめて一目だに見せ給へ。

Q70. 識別せよ。

賢き人すら過つ、いはむや凡人をや。

Q71. 識別せよ。

御涙、御袖さへ濡らしたまふ。

Q72. 識別せよ。

我が思ひだに告げざりき。

Q73. 識別せよ。

帝すら御心動きたまふ。

Q74. 識別せよ。

雨、雪さへ降りて、寒し。

Q75. 識別せよ。

いとはかなき夢だに見えず。

Q76. 識別せよ。

草木すら情けを知る。

Q77. 識別せよ。

風、霧さへ立ちぬ。

Q78. 識別せよ。

一句だに詠まず。

Q79. 識別せよ。

童すら知れり。

Q80. 識別せよ。

御涙、御衣さへぬるるばかりなり。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

難関大頻出。文脈総合判断・古典常識を伴う。

Q81. 次の歌の傍線部「だに」を識別せよ。

せめて夢にだに見えむと祈る。

Q82. 識別せよ。

親すら子に背かれて、いはむや他人をや。

Q83. 識別せよ。

涙、声さへかれて、ものも言はれず。

Q84. 識別せよ。

一日だに忘れず。

Q85. 識別せよ。

神すら心動かす歌。

Q86. 識別せよ。

風、月の影さへゆかし。

Q87. 識別せよ。

我が身だにながらへば、なほ世の中も見ばや。

Q88. 識別せよ。

中宮すら驚かせたまふ。

Q89. 識別せよ。

雪降り、霜さへ深し。

Q90. 識別せよ。

夢だにおぼつかなし。

Q91. 識別せよ。

鬼神すらまれにあらはる。

Q92. 識別せよ。

御涙、御簾さへしほれて。

Q93. 識別せよ。

せめて影だに慕はばや。

Q94. 識別せよ。

我すらかくぞあやしき。

Q95. 識別せよ。

川の音、心さへ澄む。

Q96. 識別せよ。

一瞥だにくれず。

Q97. 識別せよ。

御目すらくらまれたまふ。

Q98. 識別せよ。

暑く、汗さへ流る。

Q99. 識別せよ。

一行だに書かれず。

採点振り返り

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

あとがき

副助詞「だに・すら・さへ」識別の核心： - 「だに」「すら」 → 類推（～でさえ） - 「さへ」 → 添加（～までも） - 「だに」は願望表現とセットで「せめて～だけでも」（最小限） - 「すら～まして／いはむや」、「だに～まして」の **連動構文** に注意

接続だけでは決まらないので、**意味で判断** すること。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太